

全日本中学校陸上競技選手権大会

快挙！西中が女子リレーで全国V2

全国の中学生アスリートたちがしのぎを削る「全日本中学校陸上競技選手権大会」が8月18日～21日、新潟県の東北電力ビッグスワンスタジアムで開催されました。西中女子リレーチームは、昨年の同大会4×100mリレーで優勝しており、今年は悲願の連覇を誓って、トレーニングを積んできました。万全を期して臨んだ大会では、予選で何と、47"90の大会新記録をマーク。決勝では記録の更新はならなかったものの、ぶつぎりの走りで二連覇の栄冠をつかみ取りました。「全国大会という大舞台で力を出し切った選手を、褒めてやりたいです。それぞれのさらなる活躍を期待しています」と陸上部顧問の

海老原先生。この夏、全国に成田旋風を吹かせた6人の成田っ娘。彼女たちは、すぐに次の目標に向かって走り出しました。



大会記録更新を告げる電光掲示板



はじける笑顔を見せるメンバー



椎名 千晴さん
(3年生・1走)

中学生記録を出せなかったことが悔しいけれど、二連覇を果たせてよかったです。スタートを決めるコツは、みんなを信じること。



平井 彩也華さん
(3年生・2走)

最高の絆でつながった最高のメンバーで優勝できました。チームで結果を出していくことで、連覇の重圧をはねのけられました。



佐藤 里佳さん
(2年生・3走)

偉大な先輩たちのおかげで果たせた連覇。この感動は言葉にできません。チームを引っ張り、来年は必ず三連覇してみせます。



鈴木 茉耶さん
(3年生・4走)

中学生記録は更新できなかったけれど、支えてくれたいろいろな人のおかげで頑張れました。プレッシャーを感じずに走れました。



石原 のどかさん
(2年生・控え)

普段は身近な存在の先輩が見せてくれた全国レベルの走り、しっかりと目に焼き付けてきました。来年は自分たちの番です。



谷 菜摘さん
(2年生・控え)

控えとして経験したことを来年に生かしたい。どんなに厳しい練習にも妥協せず、来年は絶対に三連覇です。

高の御太刀

ちょうちん片手に「ワッショイオーライ」

高地区で数百年前から続く伝統行事「御太刀」。8月13日～15日、同地区の小学2年生～中学3年生男子15人が御太刀を担いで地区内の家々を回り、家内安全と豊作を祈願しました。月輪神社を出発した一行は、笛と太鼓に合わせて「ワッショイオーライ」「悪魔を払え」と元気な掛け声とともに3日間で112軒を周回。まとめ役の親方を務めた成毛将彦さん(下総中3年)は「とにかく声をたくさん出すように気を付けました」と疲れを見せず話していました。



親方の笛と太鼓に合わせて「ワッショイオーライ」

ラテン・フィエスタ

中南米のリズムに 参加者もノリノリ

ペルーやブラジル、メキシコといったラテン系の人たちの交流の場として「ラテン・フィエスタ」が8月10日、中央公民館で行われました。ラテンのダンス・歌が披露されるなど、会場は大盛況。恒例となったピンゴゲームでは、ハイテンションの司会者に、盛り上がりはピークに。多くの日本人も参加し、日本舞踊が披露されるなど、日本文化との交流も図られました。



ラテンのリズムに、気分もノリノリ



印旛沼の御浜降りは昭和53年から行われず、今は堤防の上まで

麻賀多神社の例大祭

地域に息づく伝統の神事

古くは江戸時代享保年間に五カ村(台方・下方・大袋・飯仲・江弁須)の村人たちが獅子舞を舞っていたと伝えられる麻賀多神社の「祇園祭」。現在は、台方区と下方区が一年交代で奉納しています。以前は7月31日が祭礼の日でしたが、平成19年から7月の最終日曜日となり、今年は27日に行われました。神事が終わり、神社を出た神輿は鳥居河岸へ。その後、神楽舞台では、待ち構えた観客に獅子舞が披露されました。祭り当日は、平成4年4月につくられた山車も曳き廻され、たくさんの人でにぎわいました。

カブトムシとあそぼう

力強い姿に釘付け

子ども館で育てたカブトムシと遊ぶイベントが7月27日、同館で開かれました。参加した子どもたちは、カブトムシの育て方や生態などの話を聞いた後、実際にオス・メス一匹ずつ手渡され、「おおー」と声を上げ大興奮。早速、カブトムシの木登り競争や綱引き遊びに夢中になっていました。この日のためにカブトムシを育ててきたスタッフの大貫悟さんは「皆さんのところにお嫁に出す気持ちです。大切にしてほしいですね」とうれしそうに話していました。



僕のが一番だよ!